



!!ブラコン優香ちゃんが  
お兄ちゃんの担任に  
寝取られるまで

基本 16枚  
差分 204枚



お兄ちゃん  
朝ですよ

うう  
まだ時間あるだろ  
あと……一時間

こいつは鈴村 優香  
僕の可愛い妹だ  
なんだけど毎日  
朝早くから起こされるのは  
流石に辛かったりする





だーめっ！  
それ一時間前に  
聞いたよ！

あ、あれ？  
そーだったっけ？  
う、うーん



お、  
重っ！？

重い  
から

わかったわかった  
起きるからどいてくれ





お、お兄ちゃん……？

仮にもあたし年頃の女の子  
なんですけど……？

痛い痛い痛いっ！

すみませんでしたっ！

軽いっ！ 軽すぎです！

優香大明神様っ！

グググッ





はいはい  
年頃の女の子が  
股開くんじやないよ  
パンツ丸見えだぞ

んもうっ  
次はないんだからね  
心しておくようにっ！



もうっ！  
お兄ちゃんのエッチっ！  
変態っ！

え……？  
あっー！ いや、あの  
これは……っ





拗ねてなんかないよ  
馬鹿お兄ちゃん

めっちゃ拗ねてんじゃないか

おい  
いつまで拗ねてんだよ





……なんだよ

やっぱり拗ねてたんじゃなーか

あ、でもお願いきいてくれた  
許してあげてもいいよ





お前またそれかよ

デートしてくれたら  
許してあげる

これが優香恒例の  
お決まり文句  
でも付き合ってやると本当に  
機嫌が治るから不思議なやつだ





えーなんでーっ

お前も知ってるだろ  
明後日から俺向こうに  
行くんだって

あー今日はダメだぜ





そっかー  
そうですねー

先日終業式を終えた俺は  
海外で働いている両親の勧めで  
留学することになっていた  
ほとんど間を置くことなく  
発つので準備でてんやわんやなのだ



残念だなー  
せっかくの春休み  
なのになー

とはいえ準備もあらかた終わってるし  
発ったら優香は一人つきりだからな  
これからはこういうことも簡単には  
できないんだから……

そんな顔するなよ  
仕方ないな  
付き合ってるよ









あ、電話だ  
ちよっと出てくるね

何気ない日常  
この日常がこの一本の電話が  
壊すなんてことを  
今の僕が知る由もなかった



「もしもし鈴木さんですか」

「はい、どちら様ですか？」

「私、祐樹くんの担任をやらせてもらってる染川というのですが」

「え、お兄ちゃんの……？」

「あ、優香ちゃんかい？」

「は、はい。今お兄ちゃんに代わりますね」

「いや良いんだ。本人には話しづらい内容でね」

「優香ちゃんに聞いてほしいんだ」

「私に、ですか？」

「実はお兄さんがカンニングをしたらしくてね」

「その処分を下さなければならなんだ」

「え、ええっ！？　じよ、冗談ですよね」

「お兄ちゃんがそんなことするわけ……っ」

「それが証人もいてね」

「私もお兄さんを信じたいところなんだが……」

「どうだい？　優香ちゃん」

「ちよつと相談がしたいんだが学校まで来てくれないかな」

（……お兄ちゃんがそんなことするわけないよ）

「わかりました。すぐ行きます」





えっ？ あ、うん  
学校、から……  
ちよっと呼び出されちゃって

なんの電話だった？

へー優等生のお前がね  
まあデートは夜でもできるから  
気にしないで行ってこいよ





う、うん

こうして  
何も知らない僕は  
不安を抱える優香に気づくこともできず  
学校へ送り出してしまふのだった





先生どういふことなんでしょうか  
お兄ちゃんがカンニングなんて……  
そんなことするはずないです

ああ、私もお兄さんを  
信じたいんだが……  
告発があつた以上  
なんらかの対処をしないわけには  
いけないんだよ

そ、そんなっ

そんなの絶対おかしいですっ

証言だけで処罰なんて！

ああ、私もおかしいと思ってね

私以外はまだ誰も知らない

なんならこのままなかったことに

しても良いと思ってるんだ







ほ、本当ですかっ!？  
ありがとうございますっ！

うむ  
ただ揉み消すのはそれなりに  
リスクがあるからね  
相応の代償を払ってもらおうかな



だ、代償、ですか？  
で、でもあたし先生に払える  
お金なんて……

誰も金だなんて言っていないだろう  
君は持つてるじゃないか  
その魅力的な身体をさ





か、身体……っ？  
な、なに言ってるんですか  
お断りしますっ

いや無理強いはいしないよ  
ただこのことが留学先に知られたら  
どうなるだろうね

う、うう

せ、先生がそんな……

脅しみたいなこと……

わ、かりました……

身体で、払いますから

誰にもこのことは

言わないでください

お兄ちゃんあんなに

楽しみにしてたのに

それを台無しに……

そんなことあたしできないよ

くくく

優香ちゃんは物分りがよくて

先生嬉しいよ



こうしてあたしは

深く考えることもせず

先生との奴隷契約を交わしてしまった

当然、この時あんなことになるとは  
あたしは思いもしていなかった





や、やめっ  
乱暴にしないでくださいっ

もみもみ

なに、この匂い  
凄く甘くて……  
頭がボーっとして、くる





んっ、うう

こんなの、嫌、なのに  
なんで、身体が火照って





先生っ！  
本当にやめてくださいっ

もみもみ

な、なんでっ！？

お兄ちゃんとの時も

こんなになったことないのにつ

身体が、おかしいんですっ！

変ですからっ

触るのやめてくださいっ





せ、先生っ  
やめ、やめて

もみもみ

な、なんて  
あそこが濡れて……っ

あ、あ、あっ  
や、めて、くだ  
んっ

じゅん





やめてっ

やめてっ  
てばっ!

あっあっあっ

もみもみ

だめっ

おっぱいもみもみ

されてるだけなのにつ

変なのキチャうっ!



うう

な、なにこれ……

全然お兄ちゃんのと違う……

。

きやっ

ら、乱暴にしないで  
くださいっ

お前がやめてやめて

うるさいからやめて

やったんだ

ほら、今度はこっちだぞ

す、すごい  
かたくて、大きくて  
脈打ってる

な、なにをすれば  
良いんですか

はじめてだろうからな  
今日は舐める程度で  
許してやるよ



臭い、気持ち悪い  
こんなの嫌だよお  
お兄ちゃん……助けてえ

。。

うう、んう



そ、そんなこと言っ たって  
こんなこと初めてで  
ただでさえ気持ち悪いのに

おいおい  
そんな拙いので  
満足させれると  
思ってるのか？





啜えろよ

それなら下手くそでも  
幾分かマシだろ

そ、そんなの無理です  
できない、です  
そんな、こと……

で、でもこんなこと  
お兄ちゃん裏切る  
ようなこと……っ

ちっ  
もう少し舐けてやる  
必要があるようだな

おいおい  
大好きなお兄ちゃんが  
どうなっても良いのか？



せ、先生っ

こんなの……っ

恥ずかしいすぎますっ

あれもいやこれもいや

そんな態度なら俺も

考え直しても良いんだな？

う、うう

わ、かりました

我慢します





なに、そんな悲観するな  
お前もすぐに良くなるさ

絶対そんなにならないっ  
なりたくないっ





な、なんですかっ！  
このヌルヌルっ！？

ただのローションだよ  
少し気持ちよくなる  
お薬が入ってるけどな





な、なに  
本、本当に身体が火照って  
撫でられてるだけなのに  
気持ち良くなって……





な、なにこれっ  
撫でられてるだけなのに  
さっきの、キच्याう  
変なのが……っ



だ、だめっ

もう我慢できないっ

き、ちやうっ

ふふ今日はこれくらいに  
しておいてやるか

よ、良かった

もう少しで変になっちやう

とこだった



こうして初日の陵辱が終わった  
これだけでも凄い嫌だったけど  
これが生めるってことに  
あたしが気づくのは  
もう少し先のことだった





だ、だめ  
全然火照りが  
収まらないよう

んっ♡うっ♡

クキ





も、もうずっと  
してるのに  
余計に火照って……っ

あっ♡あんっ♡

クチクチ



ダメっ  
来るっ  
変なのキチャうっ!

00

あっ!  
あんっ!

グチュ  
グチュ





来るっ  
来るキちゃうっ

も、もう無理っ

グチュ  
グチュ







火照りも全然  
収まんない  
あたし……  
どうなっちゃうの

こ、こんなこと  
今までしたこと  
ないのに……っ



結局あたしはこの目

何度もなんども果ててしまった

お兄ちゃんに相談なんて

できるはずもなく

翌日再び先生のもとへ

向かうのだった





な、何するんですか  
こんなの、恥ずかしいです

お前がセックスは嫌だ  
って言うからだろう  
それに付き合ってるんだ  
これくらい我慢しろ



そんなんっ  
や、やめてください  
なにをするつもり  
なんですか

処女らしい  
可愛いおま○こだ

なあに  
じきに分かるさ





っ!?

や、やめっ!

そこは違いますっ

なにも変わらないさ  
春休みの間に此処を  
立派な性器にしてやろう



んっぎいいっ!!

やめてくださいっ  
そんなところに  
挿れないでくださいっ





うあああっ！  
あああああっ！

気持ち悪いっ  
気持ち悪いっ！  
こんなのいやあっ！



こうしてあたしの肛門開発が始まった  
この時はあんなことになるなんて  
思いもしていなかった  
あんな、ことに……っ



三日目



いくらかマシになったけど  
……なんだろう

このムズムズした感じ

五日目



な、なんで

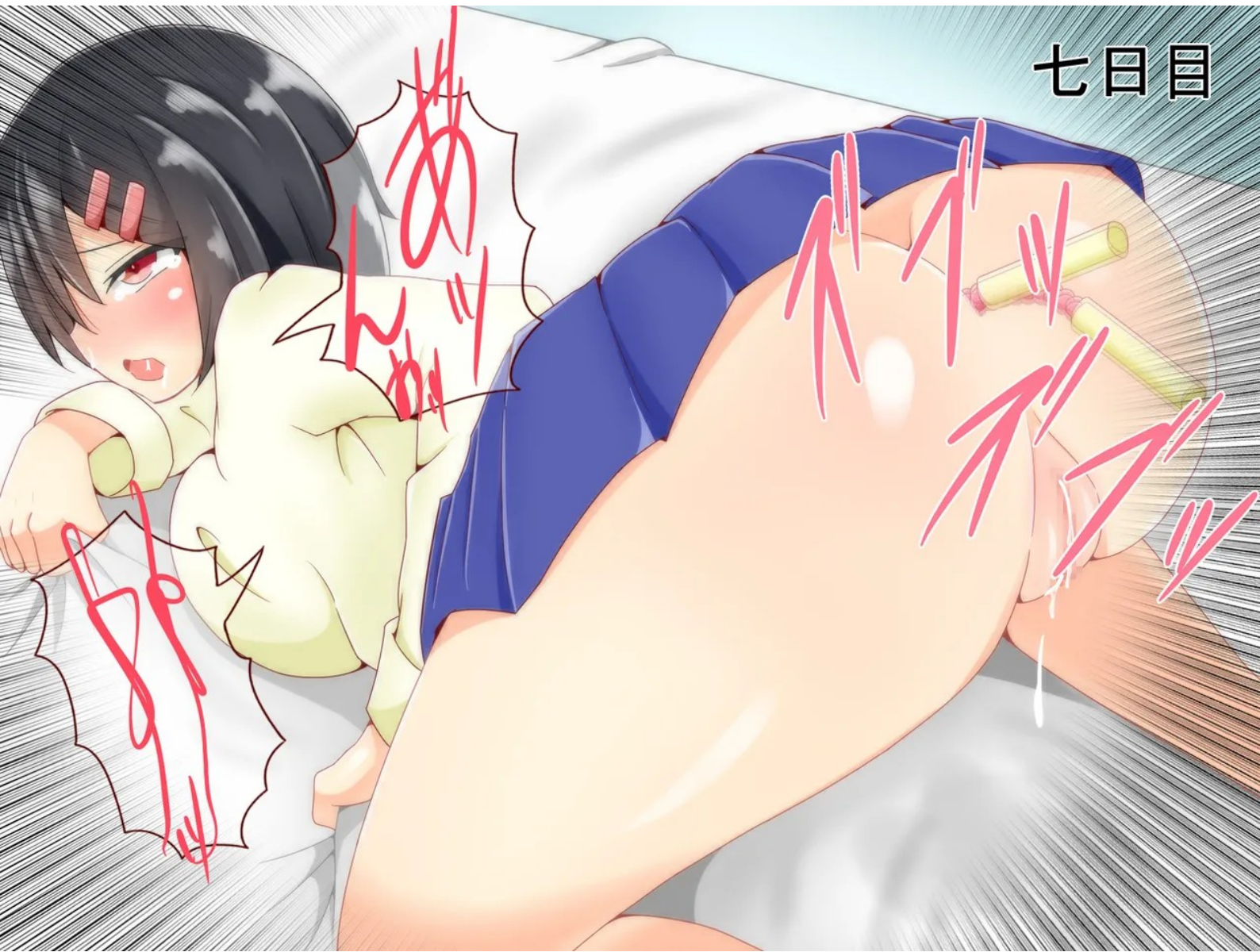
こんなの嫌なだけなのに

あたし……

濡れちゃってるっ



七日目





十日目







こうしてあたしの春休みは  
お尻の開発で費やされていった

お兄ちゃんにこんなことを

言えるわけもなく

お兄ちゃんは旅立ってしまった

次にお兄ちゃんに会えるのは

一月以上も先……

その時あたしがどうなっているのか

この時のあたしには想像

することもできなかった



新学期が始まって悪夢が終わることはなかった  
始業式

ふらつくあたしを案じて座るように先生が促してくれた  
だけど、具合が悪いわけじゃなくて……





は、はい  
だ、大丈夫、です

鈴村、無理はするなよ  
辛くなったら  
保健室に行っても  
いいからな

だ、めっ  
お尻のバイブの振動が……っ  
激しすぎてっ





だ、だめ、もう

我慢無理っ

キच्याう

お尻でっ

気持ち良いの

キच्याうっ!!!









だ、大丈夫か？

鈴木

ら、らいじょうぶ、れす

い、イツちやった  
お尻で、皆がいるのにつ

辛そうですね  
私が保健室に  
連れていきましよう





こうしてあたしは染川先生に連れられ

保健室へと向かった

でも

これが終わりではないことを

あたしは薄々予感していて

それは間違っていないことに気付かされるのは

すぐのことだった



先生っ  
やめてくださいっ  
っ、辛いんですっ

辛いやつがこんなに  
濡らすかよ  
こうしてほしかったんだろ？





や、やめっ！  
動かさないでくださいっ

だめっ  
だめなんですっ



だ、めっ  
ダメダメダメっ！

き、ちゃうっ  
も、我慢……できなっ









随分激しくイッたな  
でもイク時はイクと言わないと  
ダメじゃないか

そ、そんなの  
いや、です





だ、だめっ  
すぐキちゃうのっ！

ふーん  
好きにするがいいさ







だ、め  
イクの終わんないっ  
あたしが、ちゃんと言うまで  
やめないつもりだ……っ







こうしてあたしは何度もなんども

イカされ続けた

この男の言うとおり

あたしのお尻は立派な

性器に作り変えられてしまっていた





あぁっ お尻にっ

こんなのいやなのに  
気持ち悪いはずなのにっ





挿れられると

我慢できなくなっちゃうっ

きちやうっ

すぐききちやうっ









だ、だめ  
全然我慢できないよ



そ、そんなこと  
ありませんっ

そうかそうか  
セックスはアナルとは  
比べ物にならないほど  
気持ち良いのにな

どうだ？  
そろそろセックス  
したくなったんじゃないか



う、嘘……

今のより気持ち良いなんて……  
もしそんなことしたら……

っ！  
な、なに考えてるのあたしっ  
そんな、お兄ちゃん  
裏切るようなこと……



は、はい

ありがとうございます

まあ良い

今日はこれくらいにしよう

他の先生には言っておくから

着替えて帰りなさい

良かった

もし無理矢理されてたら……

流されてた、かも

あ、そうだ

その前に……







な、なんですか  
何するんですか？

なに  
ちょっとしたマッサージさ



このヌルヌルっ

あの時の……っ

身体が熱く

なっちゃうやつだっ





気持ち良くなっちゃ

ダメなのに……っ

胸やあそこを

こんなに弄られると……



えっ!?  
は、はい

よし、これくらいに  
しておくか  
帰っていいぞ鈴木

こ、こんな中途半端なとこで  
身体、凄い火照ってるのに





帰ってからずっと  
してるのに……っ  
ああ、またっ

だめえ  
全然収まんないよあ

ンチュ  
ンチュ







どんなに激しい絶頂を迎えても

あたしの身体が満足することはない

結局、この丸一日を

オナニーで費やしてしまった

でも、それでも満足することはできず

そしてついには

自ら先生のもとへ足を運ぶのだった



その欲求を抑えきれなくなったあたしは  
一時の衝動で過ちを犯してしまう

お兄ちゃんへの罪悪感で  
胸が締め付けられるような感覚





い、言わないでください  
今日だけ、なんです  
今日だけ、ですから

まさか君の方から  
お願いしにくるとは  
思わなかったよ



ち、違うんですっ  
悦んでなんかっ

そういう割には  
ち○ぽに食いついて  
喜んでるじゃないか





ち、違いますっ  
気持ち良くなんて  
そんな、淫乱……  
なんかじゃっ

処女だった割には  
まったく痛くなさそうだし  
やっぱり相当な  
淫乱だったみたいだな







ア  
キ  
マ  
ガ  
ッ

ア  
キ  
マ  
ガ  
ッ

気持ち良すぎてえ  
もう無理っ  
我慢無理っ













結局一回で済むはずもなく

何度もなんども射精されてしまった

その度にあたしはイッてしまって……

その先は覚えていない

目を覚ました時には

朝になっていた







それから何度も流されてしまった  
場所も学校とか関係なく……  
終いにはお兄ちゃんの部屋でまで……っ

でも

もうあたしは先生

いや、ご主人様に逆らえなくなっていた





変態ですっ！

あたしはいつでも

股を開く変態ですっ！

だからもっと突いてっ！

変態おま○こー！

もっと突いてくださーいっ



どんな酷いことをされても

あたしの身体は受け入れてしまっ

てむしろそれが気持ち良くなってしまっ

てしまっ

てしまっ

てしまっ

てしまっ

てしまっ

てしまっ

てしまっ

てしまっ

てしまっ



ようやく帰ってこれたな

久方ぶりの我が家だ

たった二ヶ月とはいえ優香も寂しがってるだろうな

最近は全然連絡取れてなかったけど

まあおみやげもあるし機嫌もすぐになおるだろう



ああ♡

お兄ちゃんお帰りの♡

ええ？ なにつてえ

ご主人様におま○こ

してもらってるだけだよお

なっ！？ えっ！？  
ゆ、優香っ！  
なにやってんだよっ！

今ご主人様に  
ナマハメしてもらってるから  
また後でね

なんだったら  
後で相手してあげても  
いいよ

う……  
あ……  
なんで……っ





たった二ヶ月で

優香は身も心も変わってしまった

突然の変化に僕はなににもすることはできず

妹の卑猥な姿に欲情することしかできなかった





















































































































































































































































